

場面④隅田川――

訳21なおもどんどん進んで行つて、
武蔵（むさし）の国と下総（し
もうさ）の国との間にたいそう
大きな川がある。

訳22それを隅田川という。

訳23その川のほとりに集まり座つて
（遠く離れた都に）思いを馳
（は）せると、限りなく遠くへ
来てしまったものだなあ、と
（皆で）つらい気持ちを嘆き
合っていると、

訳24渡し守（もり）が、「早く舟に
乗れ。日も暮れてしまふ。」と
言うので、

訳25（舟に）乗って（川を）渡ろう
とするが、人々は皆なんとなく
つらい。京に思う人がいないわ
けではないのだ。

問一 いつ頃の話か？

ア 夕方 イ 昼過ぎ ウ 日没後

訳21なおもどんどん進んで行つて、
武蔵の国と下総の国との間にた
いそう大きな川がある。

訳22それを隅田川という。

訳23その川のほとりに集まり座つて
（遠く離れた都に）思いを馳せ
ると、限りなく遠くへ来てし
まったものだなあ、と（皆で）
つらい気持ちを嘆き合っている
と、

訳24渡し守が、「早く舟に乗れ。日
も暮れてしまふ。」と言うので、
訳25（舟に）乗って（川を）渡ろう
とするが、人々は皆なんとなく
つらい。京に思う人がいないわ
けではないのだ。

問二 傍線部の気持ちが生じた原因
は何か。可能性がもつとも高
いものを選べ。

ア初めての川に恐怖を感じたから。
イ川を生死の境目と感じたから。
ウ大きな川で都とのつながりが断た
れてしまいそうだったから。

ここは空白ページです